

現 状 整 理

- 人口構造が変化していく中、今後も増加が見込まれる高齢者救急や在宅医療等の医療需要に対し、限られた資源で地域医療を支えていく枠組みが必要。
- 救急や急性期医療を担う地域の中核的な病院と、後方支援を担う病院とが役割分担を明確化し、初期診療後の適切な転院搬送や急性増悪時の対応等、適切に連携していくことが重要。
- 新たな地域医療構想においても、高齢者救急の受入れや在宅医療の提供等、医療機関機能に着目し、「治す医療」を担う医療機関と「治し支える医療」を担う医療機関の役割分担を明確化し、医療機関間の連携等を推進していく考え方が示されている。
- 一方で、従来の調整会議では、病院間連携に向けた具体的な協議には至っていない。地域の代表者間での話し合いのみならず、課題を抱える病院へ個別具体的にアプローチしていくことが必要ではないか。



今年度の進め方（案）

1 県によるプッシュ型アプローチ

- 課題認識を抱える個別病院の要望等に応じて県がヒアリングを行い、適宜県のコンサル事業の案内や必要な情報提供の実施、必要に応じて個別病院間のマッチング等の支援を行う。
- 将来的な地域医療連携推進法人の設立なども見据え、役割分担の検討、関係者間の合意形成等、連携強化に向けたプロセスをコンサル事業等を活用しながら支援する。

2 取組事例の横展開

- 取組の経過を地域医療構想調整会議等で報告。特に先進的な取組については積極的に紹介し、優良事例の横展開を図る。

構想区域内の病院間連携について

事 例 紹 介

【大崎地域の医療提供体制の確保に係る連携協約（令和5年10月）】

- 大崎地域の持続可能な医療提供体制を確保するため、大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町の1市4町で連携協約を締結。
- 大崎市民病院が主に高度急性期機能及び急性期機能を、他の構成病院が回復期機能及び慢性期機能を担うことで役割分担を明確化。
- 患者の紹介・逆紹介のほか、医療従事者の派遣、遠隔医療による支援、医療機器の共同利用等により連携を進めることとしている。

【仙台オープン病院と光ヶ丘スperlマン病院による医療連携協定（令和6年9月）】

- 地域医療の適切な機能分化と円滑な医療体制を確立するため、2病院による連携協定を締結。
- 病院間での患者の相互受入れ、職員の相互交流、医師の診療支援、施設の相互利用、医療従事者の資質向上のための合同研修の実施などにより、地域医療を支えるための連携を進めることとしている。